

がんセンターたより

前立腺センター開設



高齢化および生活の欧米化に伴い前立腺癌は増加し、2015年国立がん研究センターの罹患予測では男性がんの1位と報告されています。治療においては手術、放射線、薬物療法を病状により適切に選択し提供できる体制が重要です。3年前開始された重粒子線治療は前立腺癌に対し極めて有効で、重粒子線治療数の半数以上を占めます。従来先進医療でしたが本年4月に保険診療となり、より多くの患者さんに提供する事が可能となりました。もう一つの柱である手術では従来の腹腔鏡下手術をさらに発展させるため、ロボット支援手術（ダビンチ）を導入しました。これらの変化に合わせ、泌尿器科のみならず重粒子線治療科、放射線腫瘍科、放射線診断・IVR科、病理診断科など多部門が連携し、迅速に適切な治療選択が提供できる体制を作るため、本年9月、前立腺センターを立ち上げました。

センター化に当たっては定期的な連携カンファレンスの充実、初診を一括して受ける前立腺専門外来新設、ホームページ改修などを

行い、待機時間短縮、適切なインフォームドコンセントができる体制を整えました。開設以来、前立腺癌関連初診は例年の倍に達する勢いですが、初診までの期間は従来の数か月から2週間程度となり、患者さんの不安を解消する事が出来ています。ロボット手術も9月20日に第一例目を無事執刀いたしました。診療科だけでなく幹部、事務及び看護部など病院全体が一丸となったことで、順調に船出することができました。今後もより一層、迅速・適切な治療提供を目指し各部門が一体となって改善を重ねていきたいと考えています。

（泌尿器科部長 岸田 健）



がんゲノム医療の幕開け

企画情報部長 金森 平和

二人にひとりが罹患するがんは、今や国民病であり、高齢化社会に伴う自然現象とも捉えられます。他の自然科学と同様に、医療分野における診断技術や治療法は日進月歩であり、その一つにがんの遺伝子診断や新規薬剤の開発があります。ゲノム（遺伝子の集合体）を検査することによって、これまでは治療を受けるチャンスがなかったがん患者さんも、遺伝子検査によって新たな治療薬が適応になる可能性が出てきました。このように技術革新によってもたらされた診断法を利用して新規薬剤による個別化治療を行うことを「がんのゲノム医療」という言葉で包括しています。

遺伝子を調べる方法には、「次世代シーケンサー」や「遺伝子パネル検査」があり、一度に多数の遺伝子異常を調べることが可能になってきました。現在「遺伝子パネル検査」の保険適応に向けた取り組みが国家規模で進んでおり、その承認に必要なデータ収集に多くのがん患者さんの協力を得ています。来年には保険適応になるだろうと言われていたため、がん専門病院を中心に体制作りも進行し

ています。

しかしながら、現時点では遺伝子検査の対象となるがん腫が限られていることや検査費用が高額であることなどの問題もあります。さらに、高額な検査を行っても、新たな治療薬が見つかる患者さんは一部に限られることやその薬剤費も極めて高額であるという難題も抱えています。日本では「国民皆保険制度」が整備されているので、自己負担額は限られています。国民の負担によってこの制度が維持されているという背景があります。従って、すぐにすべてのがん患者さんに遺伝子検査やそれに伴うゲノム医療を適応することは容易でないことは想像に難くありません。現在の保険制度の中でがんゲノム医療を進めていくためには、インフラ整備も含めて段階的に発展させていく必要があります。

当センターもがん専門病院として、一人でも多くのがん患者さんが「がんゲノム医療」の恩恵に浴することができるように病院全体で基盤整備を進めていますので、引き続き、皆様のご理解・ご支援をお願い申し上げます。



学

会

報

告

欧州臨床腫瘍学会 (ESMO 2018)

消化器内科 (肝胆膵) 佐野 裕亮

2018年10月19日から23日までドイツ・ミュンヘンで開催された「欧州臨床腫瘍学会 (ESMO 2018)」に参加させていただきましたのでご報告致します。ESMO は世界 100 カ国以上からがん診断・治療に携わる臨床医や研究者が参加する欧州で最大規模の学会で、最新の治験や臨床試験の状況を知ることができました。

肝細胞癌に関しては、近年血管新生阻害薬の開発が盛んに行われ、レゴラフェニブやレンバチニブが新しく標準治療となりましたが、次世代治療として免疫チェックポイント阻害薬が注目されています。最近では血管新生阻害薬との併用療法の治験も進行中で、本学会でも複数の報告がありました。また、胆道癌では、FGFR2 融合遺伝子に対する分子標的薬の治験も行われており、最新の治験や臨床試験の状況を肌で感じることができました。



ミュンヘンはドイツ南部のバイエルン州にある都市で、ドイツ国内で第 3 の都市です。ゆったりとした雰囲気治安も良く、夜は学会に参加した先生方とドイツ料理を食べながら、色々な話をする事ができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

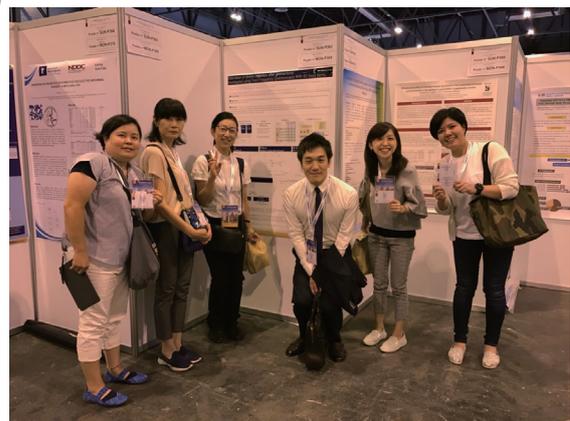
最新の知見を得ることができ、日常臨床や治験、臨床試験のモチベーションも高まりました。この度はこのような貴重な経験をさせて頂きましたことに感謝申し上げます。

欧州臨床栄養代謝学会 (ESPEN 2018)

栄養管理科 田中 明美

2018年9月1日から4日まで、初めての国際学会 40th European Society of Clinical nutrition and Metabolism Congress 2018, Madrid に参加させていただき、「Alternation Of Dietary Ingestion After Gastrectomy: Investigated Using Food Frequency Questionnaire With 82-Food Items」のタイトルで、進行胃がん、術後補助化学療法施行例では術後 3 か月も経口摂取量が減少傾向であることを報告しました。

他の演題では、サルコペニア評価「SARC-F」が有効であったこと、新しい栄養評価の



「GLIM 基準」が発表されたことなど、最新の知見を学ぶことが出来ました。

今回、このような貴重な機会をいただいた胃・食道外科の先生方、栄養管理科の方々に心から感謝申し上げます。今後、業務に還元して行きたいと思います。

診療科紹介

消化器外科（胃食道）

胃食道外科は、毎朝全員で行なっているカンファランスと、毎週水曜日に消化管内科、放射線腫瘍科と一緒に行なっている合同カンファランスで治療方針を共有し、統一した方針に基づく診療を行なっています。

ご存知のように、胃癌は減りつつある疾患であり、その一方で、高齢者患者が増えている疾患です。われわれは、これにしっかり向き合っ、当がんセンターで多くの胃癌患者を食道癌患者とともに治すという使命を果たさなければならないと考えています。

当科では、ローテーションで来ている若手を教育し、資格を取得してもらうことにも力を入れています。臨床面では、三階建て専門医制度の三階部分である「内視鏡外科技術認定医」と「食道専門医」を取得してもらうことに力を入れています。研究面では、「医学博士」を取得してもらうことに

力を入れています。取得への道筋はシステム化されており、取得のための勉強会などにも力を入れています。

当科はレジデントを含めると現在 9 名おりますが、最大の売りはチームワークです。互いに個々を尊重することを念頭に、時には切磋琢磨し、皆の得意分野をそれぞれ伸ばしながらも一つの科として集結し、これを力として外に向かってアピールしていくことを目指しています。

われわれはこのチームワークを、多くの診療科の皆様、コメディカルの皆様、臨床研究所の皆様、事務の皆様とも共有し、一体となっがんセンターのさらなる発展に貢献していきたいと考えています。

今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

（消化器外科（胃食道）部長 大島 貴）

神奈川県保健衛生表彰



放射線診断技術科
部長 赤間 満博



新任紹介

職員の異動がありましたので、ご紹介します。よろしくお願いいたします。



重粒子線治療科
医長 芹澤 慈子

リレー・フォー・ライフ・ ジャパン 2018 横浜



参加
しました!

10月6、7日、みなとみらい臨港パークで開催された「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2018 横浜」に今年も参加しました。前日は台風 21 号の影響で開催が危ぶまれましたが、当日は台風一過の晴天となり有意義な時間を過ごすことができました。「がん患者は 24 時間がんと向き合っている」をメッセージに私たちは、プラカードを持ちながら歩き、血圧測定、がん相談を行いました。皆様にいただいた募金はがん患者さんや家族の為の無料電話相談サポート、新しい治療法、新薬開発等への研究助成などに役立てられています。ルミナリエバッ



クの作成、募金のご協力ありがとうございました。また、来年もよろしく願い申し上げます。(患者支援センター)

緩和ケア週間

10月2日～
10月6日
開催

10月2日～10月6日、「神奈川県立がんセンター緩和ケア週間」を開催いたしました。昨年に続き第3回となる今回も、病院職員が記載した患者さんへの応援メッセージを掲示いたしました。また、



今回から緩和ケアをより知っていただきたいという気持ちを込めて、緩和ケア週間の横断幕やのぼりでの装飾を試みました。患者さんやご家族のみなさまから、「オレンジ色の装飾で気持ちが明るくなります」とのお声をいただきました。新たなイベントの緩和相談やハンドマッサージも好評で、多くの患者さんやご家族に来ていただきました。

(緩和ケアセンター)



遺伝カウンセラーについて



「遺伝カウンセラー」をご存知ですか？
 遺伝や遺伝性の病気に関する不安を持た
 れている方やそのご家族に正しい情報を
 提供し、共に考え、必要に応じたサポ
 ートを行なう仕事です。養成大学院を修了
 後、学会が実施する試験に合格すると「認
 定遺伝カウンセラー」の資格が得られま
 す。遺伝性疾患は多岐にわたるので、遺
 伝性腫瘍以外の分野で活躍する遺伝カウ
 ンセラーもいます。

当院には 2 名の認定遺伝カウンセラー
 がいます。遺伝性腫瘍の可能性を調べる

ためのご家族の病歴確認、遺伝カウンセリ
 ング外来の案内と実施、遺伝性腫瘍の診断
 後のサポート等を行っています。外来では
 遺伝性腫瘍の正しい知識を得ていただき、
 遺伝性と知るメリット・デメリット等を考
 えていきます。

最近ではがんゲノム医療や治療薬の選択
 において遺伝性腫瘍が分かる場合もあるた
 め、仕事の範囲が広がってきています。こ
 れからは「遺伝カウンセラー」を目にする
 機会も増えるかもしれません。(遺伝診療
 科 認定遺伝カウンセラー 羽田 恵梨)

★ ボランティア会 ランパス★ による 12 月～2 月 木曜ミニコンサート予定表

- 12/6 ミュージックベル
 (あんさんぶる・カリオン)
- 12/13 クリスマスコンサート
 アンサンブル
 (アンサンブル☆テタール)
 声楽 (三輪 みどり)
- 12/20 ヴァイオリン (丹沢 広樹)

♪ 午後 2 時～(約 30 分) 2 階ラウンジにて

- 1/17 お琴アンサンブル (箏結会)
- 1/24 ビオラとピアノ (マリエリカ)
- 1/31 ピアノ連弾 (上月 早苗、井上 眞記子)
- 2/7 ヴァイオリン (渡来 さやか)
 ピアノ (中村 美雪)
- 2/14 琴 (小谷 恵子)
 フルート (川添 久美子)

※当日演奏者の都合により変更になることがあります。

編集後記

今年は平成 29 年度末に「激震」があり、多くの皆様にご心配とご迷惑をお
 かけしました。年末にあたり、温かく見守っていただいた関係者の皆様にお礼
 を申し上げます。同じ頃に第 3 期がん対策推進計画が閣議決定され、がん医療の充実の中に「が
 んゲノム医療」の推進が強く打ち出されました。現時点では、遺伝子検査の結果からすぐに治療
 薬が見つかる患者さんは約 10%程度ですが、近い将来、より多くの患者さんがその恩恵に浴す
 ることを期待しつつ、当センターも「ゲノム医療」の提供のための準備を進めています。

(企画情報部長 金森平和)

編集・発行：神奈川県立がんセンター 企画調査室

〒241-8515 横浜市旭区中尾 2-3-2

TEL 045-520-2222 (代表)

<http://kcch.kanagawa-pho.jp/>

